

平成 19（2007）年 1 月の世界と日本の月平均気温について（速報）

～世界は先月に引き続き第 1 位を更新、日本も第 4 位の高温～

2007 年 1 月の世界の月平均気温は、統計を開始した 1891 年以降で最も高い値となり、先月（2006 年 12 月）に引き続き第 1 位を更新しました。また、日本の月平均気温は、統計を開始した 1898 年以降で 4 番目に高い値となりました。

2007 年 1 月の世界の月平均気温（陸域における地表付近の気温と海面水温の平均）の平年差^{*1}（速報値^{*2}）は $+0.45^{\circ}\text{C}$ と、1 月の気温としては 2002 年の $+0.44^{\circ}\text{C}$ を超え、統計を開始した 1891 年以来、最も高い値となり、先月（2006 年 12 月）に引き続き第 1 位を更新しました（図 1）。

また、同月の日本の月平均気温の平年差^{*1}は $+1.44^{\circ}\text{C}$ と、1 月の気温としては 1989 年($+2.09^{\circ}\text{C}$)、1972 年($+1.65^{\circ}\text{C}$)、2000 年($+1.46^{\circ}\text{C}$) に次いで、統計を開始した 1898 年以来、4 番目に高い値（第 4 位）となりました（図 2）。

1 月の月平均気温は平年を上回る地域が多く、陸域では先月に引き続き、ロシア東部からヨーロッパ北部にかけてのユーラシア大陸の中・高緯度のほぼ全域で特に気温が高くなり、海面水温では、熱帯域のほぼ全域で高かったことに加え、北大西洋や南インド洋西部でも広く高温域が見られました（図 3）。

長期的には、1 月の世界の月平均気温は 100 年あたり $+0.73^{\circ}\text{C}$ の割合で上昇し、日本の月平均気温は 100 年あたり $+1.02^{\circ}\text{C}$ の割合で上昇しています。

これらの要因としては、二酸化炭素などの増加に伴う地球温暖化の影響に、エルニーニョ現象や十年～数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動が重なったものと考えられます。

世界及び日本の年平均気温、月平均気温は気象庁ホームページにて随時更新・掲載しています。

<http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/temp/index.html>

^{*1} 平年差とは平均気温から平年値を差し引いた値（平年偏差ともいう）です。平年値としては、1971～2000 年の 30 年平均値を使用しています。

^{*2} 2007 年 2 月 9 日までに入電したデータをもとにした解析値です。

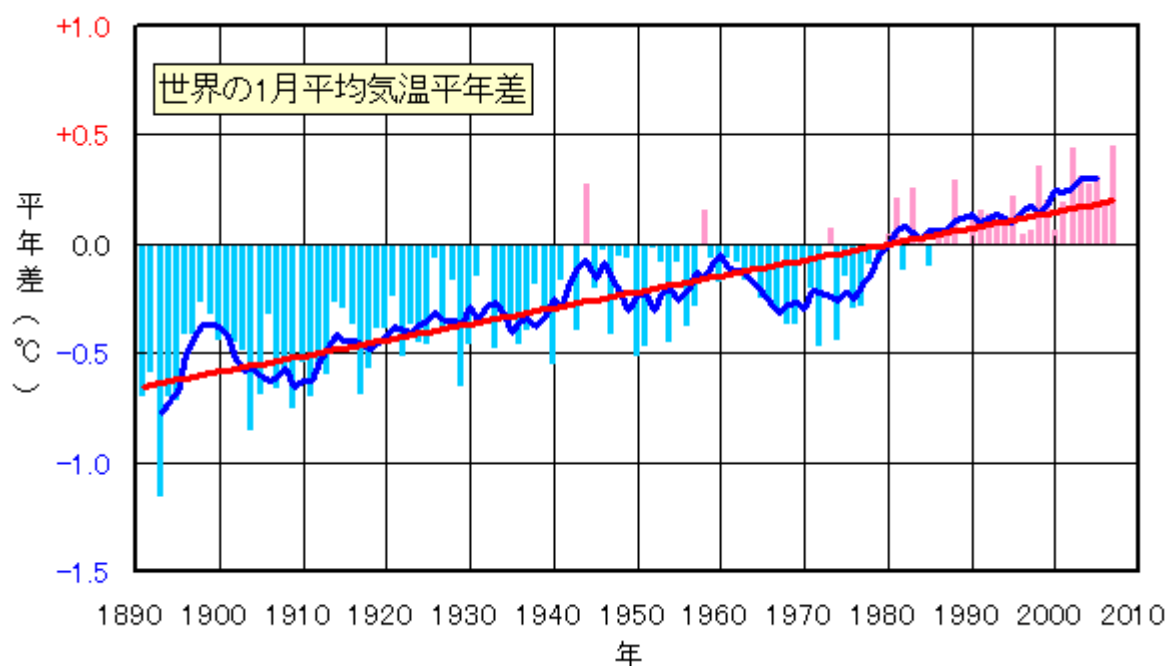


図1 2007年1月の世界の月平均気温の平年差の経年変化(1891～2007年)
棒グラフは各年の値、青線は各年の値の5年移動平均を、赤線は長期変化傾向を示す。

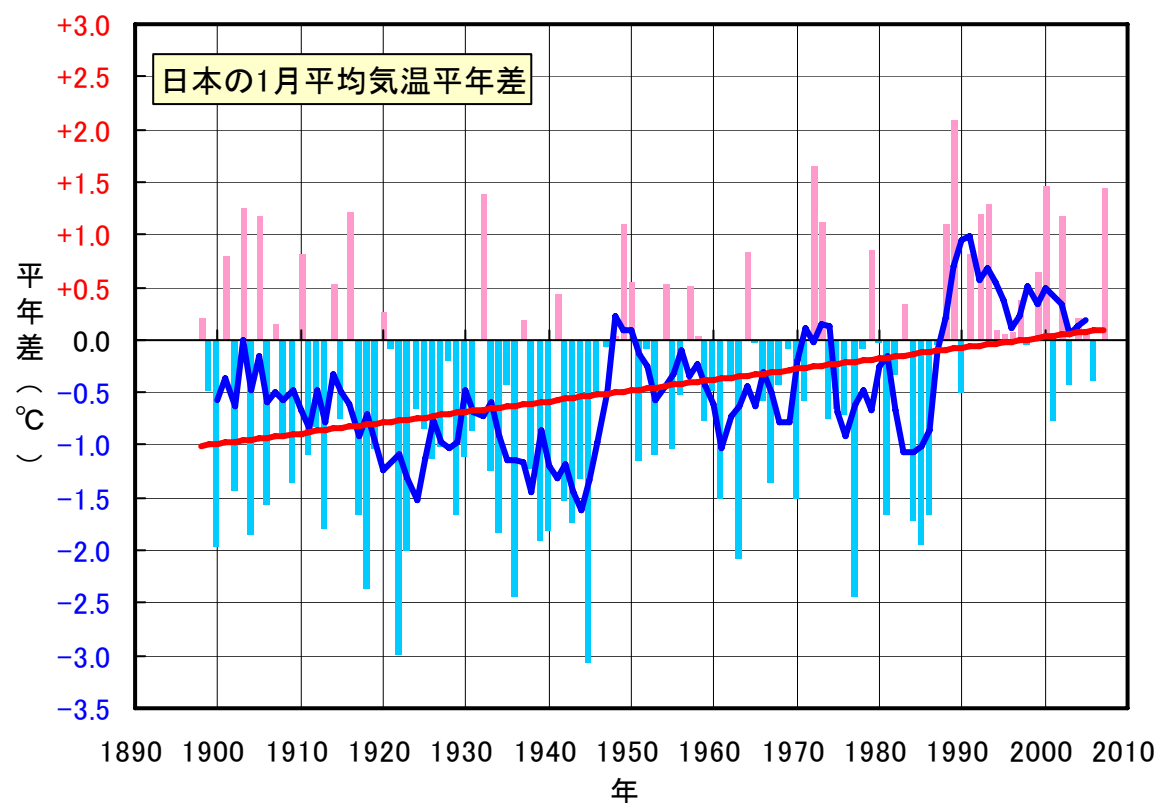


図2 2007年1月の日本の月平均気温の平年差の経年変化(1898～2007年)
棒グラフは各年の値、青線は各年の値の5年移動平均を、赤線は長期変化傾向を示す。

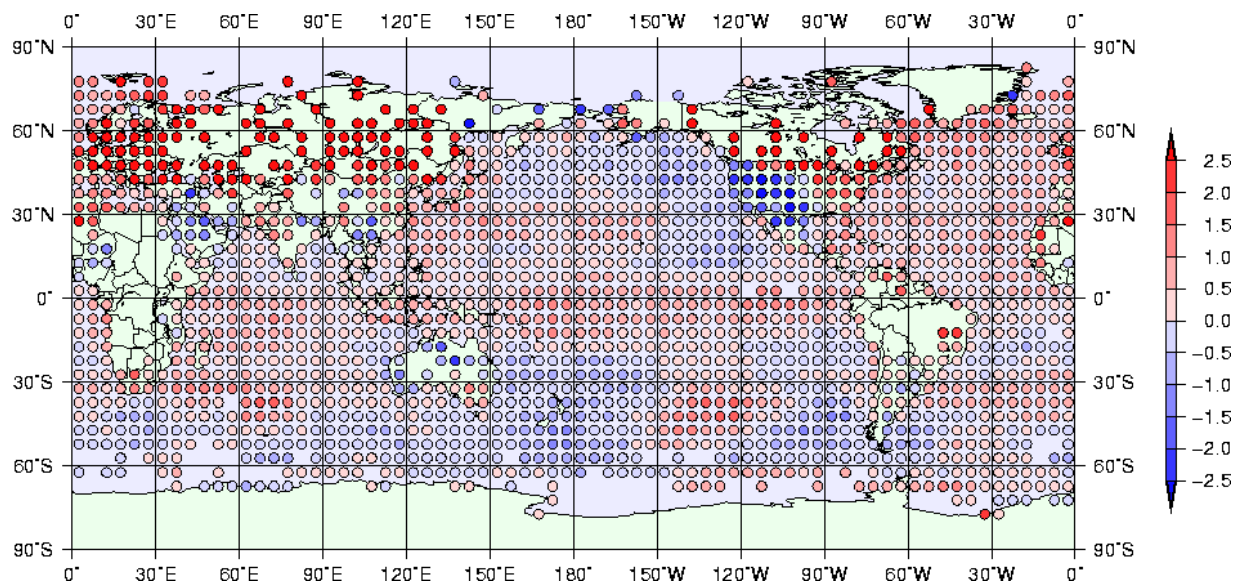


図3 2007 年 1 月の月平均気温の平年差の分布
緯度、経度 5 度の領域ごと平均した値で示す。

(参考)

1 月の世界の月平均気温の順位

順位	年	平年差(°C)
1	2007	+0.45 (速報値)
2	2002	+0.44
3	1998	+0.36
4	2005	+0.31
	2003	+0.31
6	1988	+0.29
7	2004	+0.27
	1944	+0.27
9	1983	+0.26
10	1995	+0.22

1 月の日本の月平均気温の順位

順位	年	平年差(°C)
1	1989	+2.09
2	1972	+1.65
3	2000	+1.46
4	2007	+1.44
5	1932	+1.38
6	1993	+1.28
7	1903	+1.26
8	1916	+1.21
9	1992	+1.19
10	1905	+1.18

※ 2007 年 1 月の世界の月平均気温の平年差は、2 月 9 日までに入電したデータをもとにした速報値です。確定値は、2007 年 3 月初めに公表しますが、速報値とは順位、値ともが変わる可能性があります。